

Local Area News

セールス講習会を実施

群馬県電機(商)

9月13日、前橋市・群馬県農協ビルにおいて、「女性視点のマーケティング」をテーマに講習会を開催した。講師は、女ココロマーケティング研究所所長の木田理恵氏。

木田氏はまず、年々市場が拡大しているリフォーム業界について、「他業界からの参入も多く、個人の電気店の受注は伸び悩んでいる。リフォームは家電と並んで、家庭における女性の決定権が強く、女性をターゲットに販売戦略を練ることが必要である」と説明。



熱心に受講する参加者

次いで、「街の電気店の強みは、『一人一人の顔が見える関係性』である。特に女性は困りごとの共感や、心配等の情に語り掛けてくれる相手を好む傾向にあり、相手に『私のことを心配し、常に気がつかしてくれる専門家』と思わせる信頼関係の構築・継続が売り上げアップにつながる」と指摘。

最後に、「女性は製品のスペックよりイメージを重要視する傾向があり、『これを購入することで生活はどの良くなるか』を想像させる提案が必要」と説明。提案時に有効な話法として①Scene(シーン)、②Value(価値)、③Fact(事実・特徴)の順に話す「SVF話法」を解説し、講習をしめくくった。

創立60周年を祝う

群馬県自転車(協)

9月20日、渋川市・ホテル木暮において、創立60周年記念式典を挙げる。顧問の上野宏史衆議院議員、群馬県警察本部、群馬県防犯協会等の来賓と、全国団体及び関東、ブロック都県の理事長を迎え、華やかに執り行った。

木村順一理事長は、ケネディ大統領の言葉を交えながら「組合員一人ひとりの頑張りが業界の発展につながる」と呼び掛けるとともに、「技術に加え、お客様への丁寧な接客が次のアイデアにつながる」「自転車に起因する交通事故防止にこれまで以上に尽力してい



多くの参加者とともに60周年を祝った

く」と、地域自転車店に求められる経営や、地域の組織を生かしての交通安全への取組みを力強く訴えた。

続いて、群馬県防犯協会、群馬県交通安全協会への感謝状贈呈、組合・業界発展に功績のあつた9名に対する理事長表彰を行った。

修理の対応や交通安全推進のためにも身近な自転車店が不可欠であると再確認する式典となった。

技能講習会を実施

群馬県塗装看板(協)

9月20日、前橋市・前橋高等職業訓練校において、「常温亜鉛メッキZRC工法の施工管理」をテーマに技能講習会を行った。講師は、株式会社ゼットオールシー・ジャパン営業部長の宮原重之氏。

ZRC(Zinc Rich Compound)は、「常温亜鉛めつき」とも呼ばれ、ZRCという特殊な塗料を塗布することで、溶融亜鉛めつきと同様の防錆効果が得られる工法のこと。施工には(株)ゼットオールシー・ジャパンが実施する講習を受ける必要がある。

LAW



実習は順々に全員が受講する形で行われた

り、本講習を実施した。
当日は、60名以上の組合員が参加し、ZRC工法の概要、施工の手順について説明を受けた。その後、実際に塗料を用いて、施工の実習を行った。

恒例の優良事業所視察を実施 太田機械金属工業(協)

10月5日・6日の2日間、石川県小松市「株式会社小松製作所粟津工場」の視察を行った。

建設機械の日本シエアナO.1で、建機のIoT・ICT化への取組みが有名な同社だが、プレス機、レーザー加工機といった産業機械の製造も行っている。また、機械の電子制御部品を自社開発するものづくり企業としても知られており、同社の最新技術やその取組みから学ぶことを目的に視察を実施。組合員企業・事務局併せて17名が参加した。

当日は、同社の担当者から粟津工場の概要説明を受けた後、産業機械、建設機械の順に製造工場を視察し、同社が製造する最新鋭の産機・建機の製造工程を見学した。実際の産機・建機によるデモンストラーションも含まれ、ICT化を通して同社が目指す「スマートコンストラクション」の実現に向けた取組みを学んだ。

2日目はゴルフコンペ並びに近

隣の観光を実施。見聞と組合員同士の親睦を深める充実した2日間となった。



事業所内で記念撮影

地域に寄り添うパーティーに

太田ガス事業(協)

10月6日・7日の2日間、太田市・ティアラグリーンパレスにおいて、秋の大感謝祭を開催した。今年で5回目の開催となった本イベントは、最新のガス機器の展示や紹介を行うだけでなく、組合が地域のお客様と交流することのできる貴重な場となっている。

イベントでは、各メーカーのガス器具等を特別価格で販売するとともに、ガスや電気に関する生活

相談を実施。また、リフォーム相談コーナーや住宅設備機器の展示コーナーも設けるなど、ガスだけでなく、日々の暮らしを快適で豊かにする総合的な提案を行った。

イベント期間中は、太田女子高等学校吹奏楽部の演奏や、豪華賞品が当たる抽選会等が行われ、2日間で約1,000人の来場者を大いに楽しませていた。

大塩理事長は「このイベントは商品を取ることが第一の目的ではない。まず商品を手で触れ、目で見てその魅力を知ってもらうことが大切。そして何より地域のお客様に感謝の気持ちを伝えるための場所として、これからも継続していきたい」と語った。



商品説明に聞き入る来場者